

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

ラジオ「キリストへの時間」がますます必要とされる時代へ

「キリストへの時間」協力委員

(日本キリスト改革派四日市教会牧師) 長谷川 潤

私の実家がある千葉県は、この9月、台風15号の影響で大規模停電に長期間見舞われました。長期にわたる停電で、スマホやパソコンが使用不能となり、もちろん、テレビも視聴かなわず、最新情報を入手することが困難だったとのこと。しかし、乾電池式やハンドルをグルグル回して蓄電する方式のラジオが大活躍したとも伺いました。今日、ラジオはまだ健在で、いざという時に役立つと思われた次第です。ラジオは古くて新しいマスメディアと言えましょう。

ラジオ「キリストへの時間」は、1952年、中部日本放送(CBC)で、放送が開始され、今年の10月27日で丸67年となり、間もなく70周年です。この間、宣教の主なる神さまによるお導きと、関係者各位によるご尽力、関係教会・学校のご支援によって、この番組は継続され、今では、パソコンやスマホでも、放送後一週間は、ラジオのタイムフリーによって全国各地で聴取が可能となりました。しかし、デジタル社会にふさわしく放送形態が多様となる中でも、聖書のみ言の説教を中心とした、ミニ礼拝形式という番組内容は首尾一貫しております。リスナーの皆様におかれましては番組内容に関してそれぞれ多様なご意見・ご要望があるかと思いますが、礼拝形式一筋およそ70年、私個人としては、CBCの老舗番組の一つとして、礼拝形式の番組内容にこだわり続けることが大切であり、今後、そのこだわりが力を発揮するものと思っております。

ラジオ「キリストへの時間」は、協力委員会規定の第2条にあるように、「聖書において示されているイエス・キリストの福音をマス・コミュニケーションの手段を通して宣べ伝えること」が目的です。ですから、電波やインターネットを通じて、キリストの福音を、

諸事情で教会に行けない不特定大多数の方々に、特に未信者の方々の魂にお届けすることが一つの大きな目的となりましょう。今までも、福音がAM放送(今ではFM放送も)を通じて、教会のない地域の方々へと提供され続けました。そして、今は、全国各地、インターネットの環境さえあれば、この番組を通じて福音を聴くことができます。と同時に、ラジオ「キリストへの時間」は、み言の説教中心のミニ礼拝形式でもありますから、信者で、年齢や体調の関係で、ご自分が所属する教会の礼拝への出席が困難となったの方々へと礼拝の機会を提供するというのも、一つの大きな目的となりましょう。本放送は毎週日曜日午前6時30分からですが、ラジオによるならば、放送終了後聴取できますから、日曜日、家庭・施設他で礼拝するために、この番組を活用していただくこともできましょう(現状では、時間の関係で、説教後の讃美歌が短くなる場合もあります)。

『見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び』(詩編133:1)。昔風に言うならば、お茶の間で、みんな、ラジオの前に座りながら、み言の説教に耳を傾け、主なる神さまを賛美する、そのような家庭他での礼拝にも、この番組を用いていただけたらと願っております。最後に欲を言えば、財力などの面でもとても無理でしょうが、放送枠を15分拡大して、せめて30分枠で放送できれば、礼拝形式にもっと近い番組内容を提供できるのですが…。車社会の中での礼拝形成で、今後、いよいよ高齢社会になるにつれて、ラジオ「キリストへの時間」のようなマスメディアによる宣教がますます必要とされる時代になりつつあるように思います。

「あなたの誕生日」

日本基督教団瀬戸永泉教会牧師 小 椋 実 央

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

(ルカによる福音書第2章8～12節)

今日はとてもうれしい気持ちで、スタジオに入ってきました。今日は私の誕生日だからです。よく誕生日が来ても年をとるだけでちっとも嬉しくないなんて声も聴きますが、私はいくつになっても誕生日が嬉しくてたまりません。それは誕生日が神さまによってこの地上に生きることをゆるされた日であり、母の胎内から無事に出てくることができた記念日であり、そして今日から一体どんな一年が始まるのだろうか、とてもワクワクする日だからです。

けれども、誕生日を全く祝ったことがない。誕生日どころか、自分が今年で何歳になるのか、親の名前も分からないし、親族ともまったく連絡のとりようがないという人たちがいました。羊飼いたちです。この箇所はクリスマスに読まれることの多い、イエスさまの誕生の場面です。ルカによる福音書の2章の始めには、この時住民登録が行われていたと記されています。住民登録とは自分の生まれた場所に戻って、自分の家族は誰と誰、という風に登録をすることです。この時代の羊飼いたちは自分がどこの土地で生まれたか、自分の親が誰で、いつ生まれたのか、そういう大切な記録を失っていました。今日の言葉でいうと無戸籍、戸籍がない人たちです。そのために住民登録をしなくてもすることができず、「住民登録をせよ」と命令されてもいつもと同じように羊を放牧させて仕事にいそむ他ありませんでした。

イエス・キリストの誕生が知らされたのは、この羊飼いたちでありました。「あなたがたのために救い主が生まれる。」この言葉に突き動かされて幼子を探しにいきます。そして羊飼いたちが見つけたのは、薄汚い布にくるまれて、これまた汚らしい家畜小屋のえさ箱の中に寝かされている乳飲み子でした。羊飼いたちはこの乳飲み子に自分たちの姿を見出しました。神が誕生日のない自分たちに代わって、もう一度生まれてくださった。自分たちの人生を一手に引き受けて、自分たちの重荷をすべて引き受けて、十字架で死んでくださるために。神は幼子となって、自分たちに見出されることをよしとしてくださいました。

羊飼いたちはこのことを心に刻みました。自分たちが生まれた日は、幼子が生まれた日にとってかわりました。自分たちの生まれ故郷は、幼子のふるさどである天にとってかわりました。この地上で住民登録ができなくとも、天の国籍に名前が記されていることが羊飼いたちの喜びとなり希望となりました。いつもと同じように日が暮れて、朝日が昇ります。キリストが誕生しても羊飼いの仕事は重労働であることには変わりません。地上に所属を持たない羊飼いにあって、世間の目は冷たいままです。けれどもイエス・キリストがこの世に誕生した時から、羊飼いたちは新しい誕生日と、新しい生まれ故郷を獲得したのです。

この先、わたしたちは何回か誕生日を迎えることでしょう。そのたびに、誕生日を知らなかった羊飼いたちが、幼子の誕生をわがことのように喜び、胸を躍らせた特別な日であったことを思い出していただきたいと思うのです。そしてイエス・キリストの誕生日が羊飼だけでなくあなたの誕生日にもなりうること、わたしたちの生涯もまた新しい意味を持つようになったことを知っていただきたいのです。(9月15日放送)

災害とラジオ放送「キリストへの時間」

2019年は東海地方に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風から60年でした。昨年は西日本豪雨、今年は東日本豪雨、台風による大きな水害が発生しています。毎年のように続く災害ですが、「キリストへの時間」は非常時におかれた人たちに何を慰めとして語ったのでしょうか。アーカイブより「伊勢湾台風被災者に向けての緊急メッセージ」の一部を紹介します。

放送を担当して下さったのは、当時、日本改革派関キリスト教会の牧師であった壺阪国三さんです。

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」

(ローマ人への手紙8章28節)

伊勢湾台風のいたみの中にある東海三県の皆様にキリストへの時間を代表して御見舞い申し上げます。台風の生々しい爪あとのうずきがいまだに止まぬ皆様に対して、どのような言葉をもってお見舞申したらよいかと迷います。しかし、神様の御言である聖書に啓示されている福音を伝えることを命じられている私達はこの福音によって、お慰めし、希望をお伝えすることが最も適切であると思います。

私達の周囲には私達の理解に苦しむような不幸がおきたとき、神様を信じる私達は矛盾に苦しみます。神様の愛と、その御存在にさえ疑いをもつようになるのです。万事を悲観的に考えます。しかし、それは、あくまで私達人間の見きわめに立った判断でありまして、神様の側には全く別な決定があるのです。過去の台風がいたましい爪跡を残して去りました。この台風の災害のひどさを考えると確かに政治の貧困、私達の怠り、不準備、判断の誤りに大きい原因を感じますが、台風そのものはさけられない自然の力であります。「すべてのことは神よりいで、神によって成り、神に帰する」と神中心の世界観を信じているキリスト者は、そして求道者は、屋根をはぎ、家を流し、幾多の生命をうばった自然の猛威を信仰的にどのように受けとり、ゆるがない信仰の確信に生きてらよいのでしょうか。

「ああ、私はどうしましょうか」「神よ、貴方はどこにいられるのですか、この災害に対する神様の御旨

を示して下さい」との災害下のキリスト者、求道者の叫びが私の心の耳にひびくのを感じます。

さて「信仰とは、望んでいることがらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである」とヘブル人への手紙11章にあります。信仰とは、ただバクゼンと神を信じるとか、キリストを信じるようなものではありません。神様が御言（聖書）によって啓示し、約束され、主イエスの歴史的事実によって裏書されたことがらを、そのまま受取っていくことであります。神が天地を創造されたときは一切が甚だ良く、災害も天地に存在しなかったのです。しかしアダムの罪は人間を神様から引きはなすと共に、天地も呪われたのでした。イエス・キリストの救いとは、人間の罪の赦しによる神と人間との正常なる交りの回復であると共に、呪われた天地の回復でもあるのです。やがて何時のときにか、主キリストが再び来り給うとき、新天新地が回復されるのです。

私達人間の知恵では神様の愛と悲惨なる災害との間に矛盾をおぼえても、全能なる神様には矛盾がなく、一切が調和に満ちているのです。信仰とは、信じ難いときでも、神の言の上に固い信頼をおくことなのです。「彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた」のは信仰の父と云われたアブラハムでした。信仰とは、鱈の頭でも有難く信じるような盲信ではなく、私達に理解されることを信じるのでもありません。聖書に示されている神の御言の約束をのぞんで信頼することです。私達が神様の言の約束に固く立って信頼して立つとき、神様の全能の摂理の手が、火の馬、火の戦車のように強く囲りに満ち溢れているのに目がひらかれて、平安の希望に満たされる筈です。そして一切の災害が私達の上に最善となって働いていくのを知ることができるのです。私達はどのような苦難の中にあっても、御言葉に固く立ちながら、なお私達の弱さをおぼえて、脱線しないように祈りをささげたいものです。そして他方では復興のためにたゆまぬ努力をしなければなりません。

皆様の健康が支えられ更に信仰が強くなって、「平安なる義の実が結ぶ」と共に復興が速やかになるように祈ります。(1959年10月2日放送)

「病める者を訪ねる主イエス」

「キリストへの時間」が、私たちの知らない所でも確かに聴かれているのだと実感するのは、リスナーの方々からお便りを受け取るときです。先日、「現在入院をしています」という方からお便りをいただきました。お体を悪くされて入院され、ラジオを聴くようになったというのです。日曜日の朝、目が覚めてラジオを付けると「キリストへの時間」が放送されており、ベッドの上で耳を澄ませていると、聖書を読んでいたという思いに至ったそうです。聖書を送ってほしいとの旨でした。

この方が病を得られて入院なされたのは思いがけないことであったと思います。主の癒しがありますようにと祈るものです。しかし、病そのものも、主の御手からこぼれ落ちたことではないのだと思わされます。福音書を通して知らされるのは、主イエス・キリストが病の人の所をよく訪ねてくださったことです。主は今もこの放送を通して働いてくださっているのです。

「キリストへの時間」協力委員 山田詩郎



「キリストへの時間」放送予定 2020年1月～6月

1月

5日 中根一茂 (日本基督教団金城教会信徒)
12日 中根一茂 (日本基督教団金城教会信徒)
19日 堀田庸平 (日本基督教団熱田教会信徒)
26日 堀田庸平 (日本基督教団熱田教会信徒)

2月

2日 落合健仁 (金城学院大学宗教主事)
9日 落合健仁 (金城学院大学宗教主事)
16日 吉松純 (金城学院大学宗教主事)
23日 吉松純 (金城学院大学宗教主事)

3月

1日 後登雅博 (日本キリスト改革派高蔵寺教会牧師)
8日 後登雅博 (日本キリスト改革派高蔵寺教会牧師)
15日 久保田証一 (日本キリスト改革派尾張旭教会牧師)
22日 久保田証一 (日本キリスト改革派尾張旭教会牧師)
29日 相馬伸郎 (日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)

4月

5日 横山厚志 (日本基督教団瀬戸永泉教会牧師)
12日 横山厚志 (日本基督教団瀬戸永泉教会牧師)
19日 山田詩郎 (日本基督教団名古屋北教会牧師)
26日 山田詩郎 (日本基督教団名古屋北教会牧師)

5月

3日 草野誠 (日本キリスト改革派恵那教会牧師)
10日 草野誠 (日本キリスト改革派恵那教会牧師)
17日 金原義信 (日本キリスト改革派豊明教会牧師)
24日 金原義信 (日本キリスト改革派豊明教会牧師)
31日 長谷川潤 (日本キリスト改革派四日市教会牧師)

6月

7日 沖崎学 (金城学院高等学校宗教主事)
14日 沖崎学 (金城学院高等学校宗教主事)
21日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)
28日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)

「キリストへの時間」協力委員会 編集発行人 横山良樹

郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBCラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送